

北海道大学シラバス

<p>■ ■ 科目名</p>					
<p>特許と文書作成法</p>					
<p>■ ■ 講義題目</p>					
<p>■ ■ 責任教員（所属）</p>					
<p>鈴木 亮輔(大学院工学研究院)</p>					
<p>■ ■ 担当教員（所属）</p>					
<p>鈴木 亮輔(大学院工学研究院) 樋口 直樹(人材育成本部) 寺内 伊久郎(産学・地域協働推進機構) 杉田 修(北海道大学病院) 吉原 拓也(人材育成本部) 山口 茂彦(産学連携本部) 一入 章夫(IPアシスト特許事務所) 富田 尊彦(特許業務法人棍・須原特許事務所)</p>					
■ ■ 科目種別				■ ■ 他学部履修等の可否	可
■ ■ 開講年度	2016	■ ■ 期間	1 学期（春学期）	■ ■ 時間割番号	015481
■ ■ 授業形態	講義	■ ■ 単位数	1	■ ■ 対象年次	4～
■ ■ 対象学科・クラス	応用理工系学科 応用マテリアル工学コース [新			■ ■ 補足事項	
■ ■ ナンバリングコード	ENG 3200				
■ ■ 大分類コード	■ ■ 大分類名称				
ENG	工学部（工学部専門科目※情報エレクトロニクス学科専門科目を除く），工学院（工学院授業科目）				
■ ■ レベルコード	■ ■ レベル				
3	学部専門科目（発展的な内容の科目）、全学教育科目（高年次対象科目）				
■ ■ 中分類コード	■ ■ 中分類名称				
2	応用理工系学科専門科目				
■ ■ 小分類コード	■ ■ 小分類名称				
0	応用理工系学科共通科目				
■ ■ 言語コード	■ ■ 言語				
0	日本語で行う授業				

■ ■ キーワード

特許、知的財産の保護、文書作成

## ■ 授業の目標

特許の重要性と知的財産の保護についてその実学としての必要性を理解し、自分で所定の特許文書を書く。

## ■ 到達目標

特許法が必要な理由とその歴史的発展、産業応用と知的財産保護の兼ね合い、など特許と工学や科学の関係について、法律面及び実業の面から理解できるようになる。また特許戦略、知的財産の戦略についての各社や各国の思惑を知り、特許文書の表現を実践できるようになる。

## ■ 授業計画

4月5日 第1回 鈴木亮輔 講義の進め方を短時間で学生へ説明する。

4月5日 第1回 山口茂彦先生（北大産学・地域協働推進機構、弁理士、工学博士）「特許法の成り立ちと必要性の概説」

特許法が必要な理由とその歴史的発展、産業応用と知的財産保護の兼ね合い、発明者の何を保護し、どのような権利を与えるか。その効力と限界など一般に特許と工学や科学の関係について、法律の観点から語る。

4月12日 第2回 一入章夫先生（IPアシスト特許事務所 所長）「特許出願～登録までにおける弁理士業務」  
学生や研究者などがした発明について特許を取得するまでに弁理士は如何なる役割を担うかを、事例に則しながら述べる。

4月19日 休講（工学部4年生が健康診断を受診する日）

4月26日 第3回 樋口直樹先生（北大人材育成本部上級人材育成ステーション（S-cubic）特任教授／理学博士）「食品企業における知的財産戦略－サントリーの事例を中心に」

サントリーHDの知的財産部長時代に経験した戦略策定などの体験や、知財権とマーケティングの関係、中国での偽物対策に奮闘した経験について食品を例に知財戦略の実例を述べる。

5月3日 祝日

5月10日 第4回 吉原拓也先生（北大人材育成本部連携型博士研究人材育成推進室特任教授／工学博士）「IT企業の知的財産戦略」

NECで知的財産戦略を担当した経験に基づき、知的財産の売買やライセンスを含む新たな獲得方法や活用について述べる。

5月17日 第5回 杉田 修先生（北大病院臨床研究開発センター臨床開発推進部門長 特任教授）「医薬関連企業における新薬創製と特許戦略」

サントリー(株)医薬事業部（現在第一三共）において5品目の医薬品の非臨床開発研究や製造承認業務に携わった経験を基に、開発研究とそこでの知財戦略について述べる。

5月24日 休講（火曜日だが金曜日の講義を行う日）

5月31日 第6回 富田 尊彦先生（特許業務法人梶・須原特許事務所 弁理士）「特許出願書類における請求項・明細書の書き方」

鉛筆など身近な物を例に、発明をどのように捉えるか、また、それをどのように記述するかを実践的に練習する。

6月7日 第7回 寺内伊久郎先生（北大産学・地域協働推進機構戦略企画部門長、弁理士、一級知的財産管理技能士（特許専門業務）、第1種情報処理技術者、伝送交換電気通信主任技術者）「企業及び大学における知的財産活用」

パナソニック及び北大における知的財産の経験に基づいて、最終回として知的財産の役割についてまとめを行うとともに、企業及び大学における知的財産の活用についてお話しする。

## ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

特に予習や準備は必要としないが、学んだ内容を身につけるため、復習や自学自習が必要である。

## ■ ■ 成績評価の基準と方法

大教室でのリレー式であるので面接試験や統一した試験を行い難いため、毎回の講義への出席と講義時に口頭出題する小テストで評価する。理由なく3回以上欠席は不可とする。

## ■ ■ テキスト・教科書

## ■ ■ 講義指定図書

## ■ ■ 参照ホームページ

推薦参考書 <http://www.inpit.go.jp/archives/soudanpatent.pdf>

資格試験の受験指導会社による紹介 <http://profession.lec-jp.com/benrishi/introduce.html>

## ■ ■ 研究室のホームページ

講師の所属 <http://www.suntory.co.jp/?ke=hd>

<http://cofre.synfoster.hokudai.ac.jp>

## ■ ■ 備考

e-learningの録画を行い、欠席者の補講などに活用する予定である。

## ■ ■ 更新日時

2016/01/29 16:23:16